
英雄目指して頑張ろう！

パセヲ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

英雄目指して頑張ろう！

【Nコード】

N8531T

【作者名】

パセラ

【あらすじ】

知らないうちにソードアートオンラインの世界に来てしまった。
主人公日野来夏ひのらいかはゲームの世界にとらわれたすべての人を救うためチートを使って英雄を目指す

0話（前書き）

独自設定があります。嫌いな方は戻るをクリックしてください。

0話

俺は日野来夏^{ひのりか}普通の高校生二年生だ多少ゲームが得意だったりするが基本的に普通の高校生だ・・・だったはずなんだが・・・なんでこんな事になってんだ？

「ああおばぶばべば？」《どうしてこうなった？》

まあ頭のいい皆さんはさっきのやりとりで気づいたかもしれないが俺は朝、目覚めると赤ん坊になっていた！

おかしいな・・・どこの黒の組織に薬を飲まされた覚えはなかったんだが・・・

転生とゆうやつだろうか？神様にチートにしてもらった覚えもないんだが・・・

ひとまず情報がほしいのだがこの体では歩くこともできないし立ち上がることもむずかしいしな
空が見えるから外で間違いないと思うけど餓死とかになったらいやだからなー

「あら？こんな所に・・・捨て子かしら？可哀そうに」

「孤児院の先生に相談してみようかしら？」

お？都合よく助けくれそうな人がいた。ご都合主義乙とかゆうなよ？

まあこれでとうぶんは死んだりはしないだろう

~~~~7年後~~~~

どうも〜来夏で〜結局あのあと孤児院に入ることになりました。名前も偶然なのか？同じで来夏になりました。孤児院のみんなも仲良くしてくれます。

俺を孤児院に連れてきた人はこの孤児院に昔世話になっていたそう。でそのツテを使って俺を孤児院に預けてくれたらしい、なんだか話がかうまくいきすぎて逆に怖いが今のところ何もないのでよしとするか・・・

そういえばこの五年で分かった事を発表しとくか・・・まず一つ目にここはもといた世界によく似た並行世界の日本であるとゆう事。これは歴史などに微妙な違いがあったから分かった。

そして二つ目は俺にはチートが備わっていたとゆう事、俺は異常に頭がよかった。精神年齢は22歳なんだからある程度は当然だが明らかに人類の限界を超えていた何十億桁の計算でも5秒かからず解けてしまった。

「お〜い来夏遊ぼうぜ」

そして俺のことを呼ぶ少年は桐ヶ谷きりがやかすと和人孤児院の近くに家がありよく遊びに来てたので仲良くなった・・・俺は初めてこいつに会った

時何か違和感を感じた。そして、半年ほど前その違和感の正体にきずいたここは高校生だったころの俺が読んだ小説ソードアートオンラインの世界だったのだ

それにきずいた俺は初めは戸惑ったがこれから先に何人も人が電脳世界にとりこまれそして何千人もの人が死ぬそれを救えるのは俺しかない、だから俺は決意した。俺が世界を救って英雄になると

## 0 話（後書き）

これから頑張っているところと思います時間軸が分らないところがあるので間違っているとところがあったら教えてください

## 1話

（3年後）

あれからさらに3年がたった。俺は10歳になっていた。

ちなみに和人は8歳だ、たしか和人が14歳の時に例のデスゲームが始まるので後6年後とゆう事になる。

俺はこの3年間着々と準備を進めてきていた。まず俺はSAOのメインコンピューターにハッキングする事を思いついた。

たしか原作では日本政府がハッキングを仕掛けていたが失敗に終わっていた。

だが俺には人間の限界を超えた頭脳があるそれを使えばいけると思っていたのだ。

幸い孤児院にはパソコンがあつたし、色々な機材を買ったための金も稼ぐ方法を思いついていた。

え？どんな方法かって？それは某ボックスな感じの生徒会長みたいに世界中の難問を名前をふせて解いてその懸賞金を手に入れたただけだぜ？その金は違法な感じで作った銀行の口座にぶちこんである。

おそらく億単位の金が口座に入っているはずだ。

違法はだめだろってか？少々大丈夫だろ、こっちは何千人もの人を救うんだぜ？

まあ今ではハッキングの技術もあがって、国のメインコンピュータにハッキングして危険な情報をばら撒くぐらいはできるようになった。

いや、やらないけどね？やったらやったでマズイことになるし。

そういえば今はあの孤児院には住んでいない、色々違法を使って孤児院の近くに家を買ってそこに機材を持ち込んで暮らしている。孤児院の方には俺が新しい保護者に引き取られたって事になってるはずだ。

そういえば一つ重要な事を言い忘れていた。

俺もSAOの中に入ろうと思っっている、理由は外側からハッキングするより内側からハッキングした方が成功する確率が高いと思ったからだ。

本音をいえば原作を生で見たいからとゆうのも理由に入っている。

何故かは知らないがせっかくこの世界に来たんだからそのぐらいは許されると思う。

別に何か問題が起こるわけでもないしな。

だがSAOにログインするとゆう事で色々準備することが増えた。まずある程度初めから強くないといけない、ハッキングする前に死んだら意味がなくなるし助けられなくなる。

そこで俺は自分の頭脳を使って最近発表された、NERDLESを改良して自分専用のトレーニングルームを作った。

このトレーニングルームは修行用に作ったもので、仮想の敵を出現させてあらゆる条件下で戦うことができるとうものだ。

たしか似たようなものを何年後かに軍が作っていたが俺の頭脳があれば結構簡単にできてしまった。

そういえば和人もパソコンをいじるのが好きだから、たまに遊びに行ったりしてる直葉ちゃんとも仲良くなった。

俺たちの中は兄弟に近いものになっていると思う。

そして修行の結果だが・・・かなり呆気なく終わってしまった。

俺の脳は異常だからありえない反射神経とか観察力をもってる、だから相手の攻撃を見切って空気の流れや筋肉の動きなどから相手の攻撃を先読みしてありえない反射神経でかわし隙ができた敵に攻撃すればいい。

俺のカウンター戦法にあう武器として俺は槍を選んだ一見取り回しが悪くて小回りが利きにくいいため向いてなさそうだが、それは普通の槍より長さを少し短くすることで何とかなった。

槍を短くした分がリーチの長さが短くなってしまったがそれでも十分の突破力を持っているRPG風にゆうなら、攻撃力と素早さ特化のキャラと言ったところだ。

そして俺は今のうちに助けておける登場人物を助けるために、動くことにした。

## 1話（後書き）

実は作者はSAOは本の方しか知りませんWeb版のSAOで今のうちに助けられるキャラはおそらく助けないまま終わってしまいましたが、ご了承ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8531t/>

---

英雄目指して頑張ろう！

2011年8月22日21時46分発行